

科目名	心理学		
担当教員	池上 将永		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・現代心理学の基礎知識を習得する。 ・人間の心や行動を研究するための方法論を学ぶ。 			
到達目標			
自分自身の心のあり方や行動に対する理解を深める。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験(100%)			
学生へのメッセージ			
実際に実験や心理テストを実施することもあります。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	「心理学」とは何か	池上
2	知覚Ⅰ（物理的世界と知覚）	池上
3	知覚Ⅱ（知覚の情報処理的研究）	池上
4	記憶と忘却	池上
5	学習心理学Ⅰ（古典的条件づけ・オペラント条件づけ）	池上
6	学習心理学Ⅱ（認知学習・社会的学習理論）	池上
7	動機づけ	池上
8	感情の科学	池上
9	社会心理学Ⅰ（社会行動の発達）	池上
10	社会心理学Ⅱ（対人魅力と対人関係）	池上
11	パーソナリティの心理学	池上
12	臨床心理学Ⅰ（こころの病とは）	池上
13	臨床心理学Ⅱ（心理療法入門）	池上
14	脳とこころ	池上
15	筆記試験	池上

科目名	倫理学		
担当教員	白井 暢明		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
前半では人間の倫理，倫理学とはどのようなものであるかを理解させ，後半では生命倫理における主な問題や論点を取り上げ，現代における倫理的な問題についての理解を深める。			
到達目標			
現代医療の現場における具体的な生命倫理の諸問題の内容を理解し，諸問題を倫理的原則を踏まえて解決するための基礎的な力を育む。医療現場の倫理的な問題に気づくことができる感性＝倫理的感性を高める。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
議論や質問によって主張やそれを支える根拠を洗練していく過程にこそ、倫理学の底知れない魅力です。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	倫理学とはなにか？ ・「～ある」と「～あるべき」の違い ・善悪の基準とは？	白井
2	倫理学の歴史① ギリシャ哲学（ソクラテス，プラトン，アリストテレス）における倫理思想（1）	白井
3	倫理学の歴史② ギリシャ哲学（ソクラテス，プラトン，アリストテレス）における倫理思想（2）	白井
4	倫理学の歴史③ カントの道徳哲学	白井
5	倫理学の歴史④ ベンサム，ミルの功利主義的倫理学	白井
6	倫理学における二つの立場 功利主義と義務感	白井
7	生命倫理とはなにか？ 生命倫理の三つの原理：自己決定権，パーソン論，生命の神秘性	白井
8	人工妊娠中絶の問題 人工妊娠中絶に対する賛否両論	白井
9	生殖補助技術の倫理的問題 ・人工授精　・着床前診断　・出生前診断	白井
10	脳死判定と臓器移植の問題 ・死の定義をめぐる論争 ・臓器移植のドナー家族と斡旋システムの問題	白井
11	安楽死・尊厳死の問題 ・世界の趨勢・QOL（生の質）倫理とSOL（生の神秘性）倫理	白井
12	遺伝子技術 ・遺伝子による診断　・検査　・改良（クローン）・治療	白井
13	ターミナルケア ・人間にとって死とはなにか？ ・死の受容・死の看とりの重要性	白井
14	生命倫理と宗教 ・生死に関する根源的な問いと宗教，スピリチュアル・ケアの重要性	白井
15	試験	白井

科目名	基礎数学		
担当教員	吉田 幸史		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	8
履修目的・授業概要 算数・数学を復習し、今後に計算しなければならない教科内容の理解を高める			
到達目標 高校数学Ⅰのレベルを理解し、誤りなく計算できる。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 出席状況と試験 (5:5)			
学生へのメッセージ 数学が苦手と思っている学生も多いと思いますが、つまづいている部分が理解されると案外簡単です。一緒に復習してみましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	四則計算	吉田
2	方程式、不等式	吉田
3	分数と割合	吉田
4	応用問題（速度、濃度など）	吉田
5	関数とグラフ	吉田
6	三角関数	吉田
7	ベクトルとスカラー	吉田
8	試験	吉田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	物理学		
担当教員	阿部 修		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
自然科学の基礎的な学問分野である物理学の基礎知識を学び、身体の構造や動きを物理学的観点から理解し、効果的な理学療法のある方について考察する能力を涵養する。			
到達目標			
基本的な物理概念を正しく理解し、その知識と身体の構造や動きとを結びつけ、理学療法に活かす事ができる。			
授業の形式・方法			
講義(60～70分の講義と30～20分の演習)			
成績評価の方法・基準			
期末試験(80%)、レポート課題(20%)			
学生へのメッセージ			
物理学の概念を理解するには、復習が大切です。レポート課題を自力で解けるように復習に心がけてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
PT・OT ゼロからの物理学	望月久、 棚橋信雄	羊土社	2700円 +税

コマ	履修内容	教員
1	なぜ物理学を学ぶか ・物理学とは? ・理学療法と物理学	阿部
2	物理量とその表し方 ・物理量の単位と数値 ・単位の必要性 ・数値の扱い方 ・指数と対数	阿部
3	運動の表し方1 ・数式とグラフ ・三平方の定理と三角関数	阿部
4	運動の表し方2 ・ベクトル量とスカラー量 ・ベクトルの合成・分解	阿部
5	色々な運動とグラフ ・位置、速度、加速度 ・等速直線運動 ・等加速度直線運動	阿部
6	力と運動 ・力の定義と単位 ・様々な力(重力、弾性力、摩擦等)	阿部
7	運動の法則その1 ・運動の第一法則 ・運動の第二法則	阿部
8	運動の法則その2 ・運動の第三法則	阿部
9	運動量、仕事・エネルギー ・運動量と力積 ・仕事と仕事率 ・力学的エネルギー	阿部
10	回転運動 ・剛体の回転運動 ・力のモーメント ・重心	阿部
11	力と圧力 ・大気圧および水圧と浮力 ・パスカルの法則	阿部
12	波の運動 ・波の特性 ・音の特徴 ・光の特徴	阿部
13	電気と磁気 ・電気とはなにか ・磁気とはなにか ・電場と磁場	阿部
14	電流と抵抗 ・電圧と電流、抵抗 ・オームの法則 ・合成抵抗 ・電力と電力量	阿部
15	試験：教科書の演習問題レベルの問題、教科書の演習問題、レポート課題の類題	阿部

科目名	英語		
担当教員	山口 大		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要 英和辞典を活用するために必要な文法力を養成する。			
到達目標 英和辞典を活用し、必要な文法を養成することができる。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 定期試験・小テスト・授業態度			
学生へのメッセージ 分からないことはまず聞いてください。また、質問しやすい雰囲気づくりを目指します。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
ジーニアス英和辞典		大修館書店	

コマ	履修内容	教員
1	英語と日本語の違い	山口
2	文の主要素と修飾語	山口
3	品詞の働き(名詞・代名詞・動詞・形容詞)	山口
4	品詞の働き(副詞・前置詞・接続詞・間投詞)	山口
5	第Ⅰ文型	山口
6	第Ⅱ・Ⅲ文型	山口
7	第Ⅳ文型	山口
8	第Ⅴ文型	山口
9	疑問文と否定文Ⅰ	山口
10	疑問文と否定文Ⅱ	山口
11	過去形	山口
12	未来形	山口
13	現在完了形	山口
14	まとめ	山口
15	定期試験	山口

科目名	生命科学		
担当教員	林 要喜知		
	実務経験	無	
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
リハビリテーション学学習の前提となるヒト生物学を外観する。さらに、現代医療に関わる再生医療やゲノム医療の原理を学ぶのみならず、マクロ環境とヒトの健康について理解を深める。			
到達目標			
1) 細胞の構造とそれらの働きを説明できる。2) 細胞が細胞外の刺激をどのように認識しているかを説明できる。3) 細胞分裂の役割や配偶子形成を説明できる。4) ヒトの主な遺伝現象を説明できる。5) 人体の主な組織・器官の構造と働きを説明できる。6) 主な最先端医療について説明できる。7) 地球環境が及ぼすヒトの健康について説明できる。			
授業の形式・方法			
通常は講義形式でおこなうが、時にはグループ討論をおこなう。			
成績評価の方法・基準			
3つの評価項目、即ち、定期試験：小テスト：出席率・授業態度の比率を3：1：1として、総合的に成績を判定する。			
学生へのメッセージ			
リハビリテーションにはヒトの体だけでなく心の働きも理解できるように広く学ぶことが望まれます。どんな些細な事でも興味があればどん欲に学ぶ姿勢が大切です。講義に関わることや関わらないことでも、遠慮なくいつでも質問に来て下さい。あるいは、メール等でお尋ね頂いても構いません。Email:hayashi@hokuho.ac.jp			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
参考書：エビジェネティクス	仲野徹	岩波新書	908
参考書：生命と環境	林要喜知他	三共出版	3080
参考書：高校生物の教科書等			

コマ	履修内容	教員
1	<u>ガイダンス</u> ：生命とは何かという観点から生命科学の基礎を外観する。	林
2	<u>細胞の働き</u> ：主な細胞小器官(核、ミトコンドリア、細胞膜)について学ぶ。	林
3	<u>細胞外刺激</u> ：細胞はどのように細胞外からの刺激を認識するかを学ぶ。	林
4	<u>細胞分裂</u> ：体細胞分裂と減数分裂の違いを学び、その意義を考える。	林
5	<u>ヒトの遺伝</u> ：遺伝病などを例にして、遺伝のメカニズムについて学ぶ。	林
6	<u>ヒトの身体1</u> ：消化器系について概要を学び、栄養摂取の意味を考察する。	林
7	<u>ヒトの身体2</u> ：血液循環と呼吸器系を学び、ガス交換や体液循環の意味を考察する。	林
8	<u>ヒトの身体3</u> ：感覚器や骨格筋が運動メカニズムの基本であることを学び、リハビリテーションについて考える。	林
9	<u>ヒトの身体4</u> ：ヒトの恒常性に関わる神経系の構造と機能の概要を学ぶ。	林
10	<u>ヒトの身体5</u> ：ヒトの恒常性に関わる免疫系の構造と機能の概要を学ぶ。	林
11	<u>ヒトの身体6</u> ：ヒトの恒常性に関わる内分泌系の構造と機能の概要を学び、ホメオスタシスに対する理解を深める。	林
12	<u>ヒトの身体7</u> ：ヒト腎臓の構造と機能を学び、浸透圧調節や排尿の意味を考察する。	林
13	<u>先端医療</u> ：再生医療や先端医療の基礎技術の概要を学び、それらの可能性を考察する。	林
14	<u>地球環境と感染症</u> ：地球レベルのマクロな環境がヒトの健康に及ぼす具体例を学び、環境保全のあり方やエビゲノムについて理解を深める。	林
15	筆記試験	林

科目名	文章構成法Ⅰ		
担当教員	北村 勝		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
<p>学生生活および卒後の医療・福祉業務の遂行にあたり文章作成力は必須の能力である。本講義の目的は学業のみならず、日常生活の様々な場面における適切な文章表現を身につけることにある。講義では様々な演習を用いて、実践的な文章構成力の構築を目指す。</p>			
到達目標			
<p>1.言葉の知識を身につけ、必要な場面で適切に用いることができる。2.自らの考えを的確に表現することができる。3.様々な文章を的確に要約することができる。4.適切な言葉使いにより他者と円滑にコミュニケーションを図ることができる。</p>			
授業の形式・方法			
<p>プリント、視聴覚教材を活用しながら主に講義形式で行う。時にグループワークを行うこともある。</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>提出物、参加態度で評価する（提出物9：参加態度1）。</p>			
学生へのメッセージ			
<p>リハビリテーションのみならず、日常のいたる場面で適切な日本語を使用することが重要である。このことを常に意識してほしい。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
(※) 大学生のための日本語表現トレーニング	橋本修, 他(編)	三省堂	2090

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション。講義の概要を理解する。	北村
2	書く力を鍛える①：文章を書く上でのルールを理解する。	北村
3	書く力を鍛える②：会話と文章の特徴を理解する。	北村
4	書く力を鍛える③：文章の種類、事実と意見の違いについて理解する。	北村
5	書く力を鍛える④：文体、小論文・レポートらしい表現について理解する。	北村
6	書く力を鍛える⑤：メールのルールについて学ぶ。	北村
7	メモの取り方①：効果的なメモの取り方について学ぶ。	北村
8	メモの取り方②：効果的なメモの取り方について学ぶ。	北村
9	読解力を鍛える①：読解するさいのポイントを学ぶ。	北村
10	読解力を鍛える②：読解するさいのポイントを学ぶ。	北村
11	読解力を鍛える③：読解するさいのポイントを学ぶ。	北村
12	説明力を鍛える①：効果的な説明の仕方について学ぶ。	北村
13	説明力を鍛える②：効果的な説明の仕方について学ぶ。	北村
14	敬語の使い方について学ぶ①	北村
15	敬語の使い方について学ぶ②	北村

科目名	社会福祉論		
担当教員	稲積 圭一		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	8
履修目的・授業概要			
<p>保険、福祉、医療の連携が叫ばれる中、医療との関わりを中心に社会福祉に関する法制度、諸問題などについての理解を含める。</p>			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会での福祉的な問題を理解し、それらに対する社会保障その他の制度を理解する。 ・社会福祉援助技術について理解する。 ・社会福祉の理念を理解する。 ・社会保障制度の方法と機能、問題点を理解する。 			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
<p>社会福祉、社会保障制度はニュースや新聞等でも多く触れられている身近な話題であり、自分たちの生活にも直接関わってくる問題なのだとすることを理解してください。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
	社会福祉の概念と歴史	
1	古代から近代までの欧米における生活を支える仕組みの起源と特徴を学ぶ。	稲積
	戦後日本の社会と福祉	
2	社会福祉制度の歴史を学ぶ	稲積
	少子高齢化問題	
3	現在の日本が直面する少子高齢化問題について学ぶ。	稲積
	社会福祉の理念と権利擁護	
4		稲積
	児童福祉政策	児
5	児童福祉政策を学ぶ	稲積
	障害者福祉施策	
6	障害者福祉施策を学ぶ	稲積
	社会福祉援助技術	
7		稲積
	試験	
8		稲積
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	人間関係論		
担当教員	手代木 みなみ		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
<p>援助者に必要なコミュニケーションを理解し、具体的に求められる態度、技術などを体験も含め養成する。接遇マナーやビジネスマナーを身につけ、臨床場面での臨機応変なコミュニケーション力を身につける。</p>			
到達目標			
<p>職業としての特性を学び、理学療法士として身につけるべき力を身につける。</p>			
授業の形式・方法			
講義・グループワーク			
成績評価の方法・基準			
レポート・課題提出、授業態度を総合して評価する。			
学生へのメッセージ			
<p>相手を尊重し、思いやりのあるコミュニケーションができる医療人になることを目標に学んでいきましょう。</p>			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド第3版	山口美和	医学書院	3000円

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	手代木
2	人間関係とコミュニケーションの基本① ～理学療法士にとってのコミュニケーション～	手代木
3	人間関係とコミュニケーションの基本② ～理学療法士にとってのコミュニケーション～	手代木
4	自己概念の理解①	手代木
5	自己概念の理解②	手代木
6	コミュニケーション力①	手代木
7	コミュニケーション力②	手代木
8	自己管理～自律した自分になるために～	手代木
9	社会人としてのコミュニケーション①	手代木
10	社会人としてのコミュニケーション②	手代木
11	臨床でのコミュニケーション①	手代木
12	臨床でのコミュニケーション②	手代木
13	臨床でのコミュニケーション③	手代木
14	臨床でのコミュニケーション④	手代木
15	まとめ課題	手代木

科目名	情報科学		
担当教員	開田 仁司 小橋 泰文		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
IT社会における情報の扱い方やMicrosoft Officeの使用方法などを学ぶ			
到達目標			
①現在のIT情勢について見解を深める			
②IT活用時のリスクをりかかす			
③zoomを使えるようになる			
④Microsoft Officeの基本的な使い方を学ぶ			
授業の形式・方法			
講義形式の授業や実際にPC操作を行い情報処理の方法について学ぶ。授業の順序は場合によっては前後する。			
成績評価の方法・基準			
出席率と課題で成績評定を行う。			
学生へのメッセージ			
SNSが普及して生活が便利になった反面、個人情報が出てしまうなど危険な面も見られています。この授業を通してIT社会における情報の取り扱い方を学んでください。また、今後必要となる基本的なPC操作スキルも合わせて身につけましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	現在のIT情勢について	開田
2	ITの利活用の時の注意点	開田
3	ビジネス分野でのIT	開田
4	Zoomの使い方について学ぶ	小橋
5	タッチタイピングを实践する① Wordソフトの基本的な機能を実践する①	小橋
6	タッチタイピングを实践する② Wordソフトの基本的な機能を実践する②	小橋
7	タッチタイピングを实践する③ Wordソフトの基本的な機能を実践する③	小橋
8	タッチタイピングを实践する④ Excelソフトの基本的な機能を実践する①	小橋
9	タッチタイピングを实践する⑤ Excelソフトの基本的な機能を実践する②	小橋
10	タッチタイピングを实践する⑥ Excelソフトの基本的な機能を実践する③	小橋
11	Power Pointソフトの基本的な機能を実践する①	小橋
12	Power Pointソフトの基本的な機能を実践する②	小橋
13	Power Pointソフトの基本的な機能を実践する③	小橋
14	自由課題を設定し、プレゼンテーションスライドを作成する	小橋
15	課題作成	小橋

科目名	健康体力科学		
担当教員	吉田 幸史		
	実務経験		無
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後期	1	8
履修目的・授業概要			
スポーツ・パフォーマンスとそれを支えるヒトの各種能力，およびそれらの測定評価方法とトレーニング方法について，実験的研究によって得られた知見に基づいて概観し，ヒトの能力について理解を深める。			
到達目標			
運動能力を的確に分析できる。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
今後、理学療法士として活動する時に運動技能を評価・分析する機会が多いと思われます。この講義を今後の学習にも生かしてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	健康・体力・運動の科学	吉田
2	体力・運動能力の構成する要素	吉田
3	体力・運動能力の発達	吉田
4	競技力と体力・運動能力	吉田
5	運動学習	吉田
6	運動の習熟過程①	吉田
7	運動の習熟過程②	吉田
8	試験	吉田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	体育実習Ⅰ		
担当教員	小橋泰文		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	通	1	15
履修目的・授業概要			
<p>1. 心身の健康保持に留意し、全身運動を促す。</p> <p>2. レクリエーション的スポーツにより対人関係も拡大させる。</p> <p>3. 趣味的・生涯スポーツの基礎を培う。</p>			
到達目標			
<p>1.各種目の運動特性を学ぶ。</p> <p>2.各種目のスキルアップを図る。</p> <p>3.ルールと審判法を学ぶ。</p> <p>4.競技を通じてチーム内での役割を適切に担う。</p>			
授業の形式・方法			
実技形式で行う。			
成績評価の方法・基準			
出席状況：授業態度の比率を9：1として評価する。			
学生へのメッセージ			
スポーツの重要性を再確認し、日常にスポーツを取り入れ、健全なライフスタイル確立につなげることを望む。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーションー授業内容についての説明	小橋
2	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
3	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
4	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
5	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
6	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
7	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
8	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
9	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
10	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
11	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
12	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
13	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・卓球・屋外スポーツ等（各回ローテーションで実施する）	小橋
14	ミニ運動会ーチームに分かれ、これまで実施してきた種目の習熟度を競う	小橋
15	ミニ運動会ーチームに分かれ、これまで実施してきた種目の習熟度を競う	小橋

科目名	解剖学Ⅰ		
担当教員	扇谷 昌宏		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要 運動器（骨、関節、筋）、内臓（消化器、泌尿器、生殖器）について説明する。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学用語を使って身体部位を表現できる。 ・身体は細胞、組織、器官、系統の階層構造からなることを理解する。 ・骨の構造、骨の連結の正常な構造と機能を理解する。 ・骨格筋の一般的な構造と機能を理解する。 			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験と小テストの結果等を総合して評価する。			
学生へのメッセージ 解剖学は覚える内容が多く、苦手意識を持つ人もいるかもしれません。しかし、解剖学は皆さんが臨床現場で働くときの基礎となります。一緒に頑張りましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
標準理学・作業療法学 解剖学 第6版	野村巖	医学書院	6600

コマ	履修内容	教員
1	骨の総論	扇谷
2	上肢の骨の名称と形態	扇谷
3	下肢の骨の名称と形態	扇谷
4	胸・背部、頭の骨の名称と形態	扇谷
5	関節の総論	扇谷
6	上肢、下肢、頭、頸、背部の関節	扇谷
7	筋の総論	扇谷
8	上肢の筋	扇谷
9	下肢の筋	扇谷
10	頭頸部の筋	扇谷
11	体幹、骨盤部の筋	扇谷
12	消化器系①	扇谷
13	消化器系②	扇谷
14	消化器系③	扇谷
15	筆記試験	扇谷

科目名	解剖学 II		
担当教員	扇谷 昌宏		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要 神経系、内蔵（呼吸器，内分泌器，循環器）及び組織学，発生学について学ぶ			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・神経系の基本的な構成について理解する。 ・感覚器系の構造と基本的機能を理解する。 ・内臓器系（循環器，呼吸器，泌尿器，生殖器，内分泌系）の構造を理解する。 			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験と小テストの結果等を総合して評価する。			
学生へのメッセージ 解剖学は覚える内容が多く、苦手意識を持つ人もいるかもしれません。しかし、解剖学は皆さんが臨床現場で働くときの基礎となります。一緒に頑張りましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
標準理学・作業療法学 解剖学 第6版	野村 巖	医学書院	6600

コマ	履修内容	教員
1	泌尿器	扇谷
2	生殖器	扇谷
3	呼吸器	扇谷
4	循環器	扇谷
5	内分泌系	扇谷
6	中枢神経①	扇谷
7	中枢神経②	扇谷
8	末梢神経①	扇谷
9	末梢神経②	扇谷
10	感覚器（目）	扇谷
11	感覚器（鼻、耳）	扇谷
12	感覚器（舌、皮膚）	扇谷
13	組織学	扇谷
14	発生学	扇谷
15	筆記試験	扇谷

科目名	解剖学実習Ⅰ		
担当教員	小橋泰文		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	通	1	23
履修目的・授業概要			
運動器系の基礎となる骨・関節・筋の骨格標本や体表解剖学を通し、主に上肢や体幹の立体的な人体構造を学ぶ。			
到達目標			
1. 上肢体幹の骨、関節、靭帯、筋の解剖学名、立体構造を理解し説明ができる。			
2. 上肢体幹の骨、関節、靭帯について体表上から触察ができる。			
授業の形式・方法			
講義・実習 講義をメインとするときも実習時間を合間に入れて実施する。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験：実技試験を5：5として、総合的に成績を判定する。			
学生へのメッセージ			
技術の習得には練習の量が重要です。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
標準PT・OT学 解剖学 第6版	野村巖	医学書院	6600
骨格筋の形と触察法 改訂第2版	河上敬介 他	大峰閣	13200

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション、面、線、方向、部位、人体の区分	小橋
2	上肢帯の骨について学ぶ	小橋
3	自由上肢骨について学ぶ	小橋
4	脊柱の全景、椎骨について学ぶ	小橋
5	胸郭の全景、胸郭を構成する骨について学ぶ	小橋
6	関節総論。骨の連結と関節の基本構造について学ぶ	小橋
7	上肢帯の連結について学ぶ	小橋
8	肩関節の連結について学ぶ	小橋
9	肘関節、橈尺関節の連結について学ぶ	小橋
10	手の連結について学ぶ	小橋
11	脊柱の連結、脊柱と頭蓋の連結について学ぶ	小橋
12	胸郭の連結について学ぶ	小橋
13	筋総論。上肢帯の筋について学ぶ	小橋
14	上腕の筋について学ぶ	小橋
15	前腕の筋（屈筋群）について学ぶ	小橋

科目名	解剖学実習 II		
担当教員	北村 勝		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	通	1	23
履修目的・授業概要			
頭部・下肢の構造、特徴、関節の動き等の運動器を理解する。			
到達目標			
1.頭部、下肢骨の主要骨部位を理解する。			
2.下肢各関節の構造を理解する。			
3.頭部・下肢筋の名称、起始停止、走行、作用、神経支配 を理解する。			
4.骨盤帯・下肢骨のランドマーク、下肢筋の触診方法を習得する。			
授業の形式・方法			
骨格標本、教科書、プリントを用いて主に講義形式で行う。また、適宜スケッチ、触診も行う。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験、実技試験テストにより評価する（5：5）。			
学生へのメッセージ			
骨・筋についての知識はは理学療法について学ぶ上で基礎となるものであり、この点を十分に意識して主体的に学んでほしい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
(教) 標準PT・OT学 解剖学 第5版	野村 巖	医学書院	6600
(参) 運動学テキスト 改訂第2版	柳田多穂	南江堂	5280

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーションー講義内容、進め方を理解する	北村
2	骨の名称・主要骨部位の理解ー寛骨・仙骨をスケッチし、同骨の主要骨部位を理解する	〃
3	〃	〃
4	骨の名称・主要骨部位の理解ー大腿骨をスケッチし、同骨の主要骨部位を理解する	〃
5	〃	〃
6	骨の名称・主要骨部位の理解ー脛骨・腓骨・膝蓋骨をスケッチし、同骨の主要骨部位を理解する	〃
7	〃	〃
8	骨の名称・主要骨部位の理解ー足部の骨をスケッチし、同骨の主要骨部位を理解する	〃
9	〃	〃
10	骨の名称・主要骨部位の理解ー頭蓋骨をスケッチし、同骨の主要骨部位を理解する	〃
11	〃	〃
12	関節の構造の理解ー股関節の構造を理解する	〃
13	関節の構造の理解ー膝関節の構造を理解する	〃
14	関節の構造の理解ー足関節の構造を理解する	〃
15	筋の名称、起始停止、走行、作用、神経支配の理解ー股関節周囲筋の名称、起始停止、走行、作用、神経支配を理解する	〃

科目名	生理学Ⅰ		
担当教員	山本 幸司		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要 生体の機能(植物機能)とそのメカニズムについて学ぶ			
到達目標 各臓器における構造と機能を理解する。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験(100%)			
学生へのメッセージ 生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の知識であり、臨床医学を学ぶ上での土台です。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
人体の構造と機能1 解剖生理学 第10版	坂井 建雄	朝倉書店	4180

コマ	履修内容	教員
1	ホメオスタシスと細胞	山本
2	神経系、静止電位と活動電位	山本
3	中枢神経、末梢神経、自律神経	山本
4	筋組織、筋収縮のメカニズム	山本
5	血液の仕組み①	山本
6	血液の仕組み②	山本
7	心臓①	山本
8	心臓②刺激伝導系、心電図	山本
9	呼吸	山本
10	消化と吸収①	山本
11	消化と吸収②	山本
12	腎の機能と役割	山本
13	内分泌	山本
14	生殖とホルモン	山本
15	筆記試験	山本

科目名	生理学Ⅱ		
担当教員	野口 智弘		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要 生体の機能(動物機能)とそのメカニズムについて学ぶ			
到達目標 運動における神経系, 筋活動, 感覚器系の生理反応について理解できる。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験 (100%)			
学生へのメッセージ 運動に対する生理反応を理解することは医療従事者にとって重要であると思います。しっかりと学んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
人体の構造と機能1 解剖生理学 第10版	坂井 建雄	朝倉書店	4180

コマ	履修内容	教員
1	浸透圧と膜電位	野口
2	活動電位とCa ²⁺ シグナリング	野口
3	神経情報処理	野口
4	脳の機能局在	野口
5	運動制御	野口
6	視覚	野口
7	聴覚・平衡覚	野口
8	味覚・嗅覚	野口
9	体性感覚	野口
10	感覚とリハビリテーション	野口
11	脊髄反射	野口
12	自律神経系	野口
13	内分泌系	野口
14	本能行動	野口
15	筆記試験	野口

科目名	生理学実習		
担当教員	金子 智之 野口 智弘 小橋 泰文		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	23
履修目的・授業概要 人体機能を学ぶ事により、生理学を深く理解する。			
到達目標 人体機能についての知識理解を深めるために、指示された方法に基づいて各実習を遂行し、結果のまとめおよび考察を行うことができる。			
授業の形式・方法 実習			
成績評価の方法・基準 1.出席率 2.参加態度			
学生へのメッセージ 積極的に実習に参加し、人体の面白さを学んでください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
人体の構造と機能1 解剖生理学 第10版	坂井 建雄	朝倉書店	4180

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	野口
2	神経伝導①	野口
3	神経伝導②	野口
4	神経伝導③	野口
5	神経伝導④	野口
6	脳波①	野口
7	脳波②	野口
8	脳波③	野口
9	脳波④	野口
10	心電図①	野口
11	心電図②	野口
12	心電図③	野口
13	心電図④	野口
14	オリエンテーション	金子
15	スパイロメトリー①	金子

科目名	運動学Ⅰ		
担当教員	吉田 幸史		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要 人体の運動を考える時に基礎となる力学や幾何学を学び、歩行運動を中心にその活用方法を理解する。			
到達目標 モーメントを理解する、 正常歩行を理解する、 運動学習を理解する			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 試験100%			
学生へのメッセージ 前期での物理学を復習し講義に臨んでください			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	つりあいの復習	吉田
2	てこの種類と人体での応用	吉田
3	三角関数	吉田
4	モーメント	吉田
5	練習問題	吉田
6	練習問題の解答	吉田
7	歩行の相分け	吉田
8	歩行時の各関節運動 (1)	吉田
9	歩行時の各関節運動 (2)	吉田
10	歩行時の各筋の活動とその効果 (1)	吉田
11	歩行時の各筋の活動とその効果 (2)	吉田
12	練習問題	吉田
13	練習問題の解答	吉田
14	運動学習	吉田
15	試験	吉田

科目名	人間発達学		
担当教員	杉本 緑		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	8
履修目的・授業概要 人間の行動の要素となる身体、姿勢、視覚聴覚機能、目と手の協調、運動機能の発達過程を学ぶ。			
到達目標 人間の発達過程を理解し、知識を活用できるようになる。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ 解剖学的知識も同時に復習していきます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	視覚の発達	杉本
2	聴覚の発達	杉本
3	食べる機能の発達	杉本
4	手の運動の発達	杉本
5	DVD「赤ちゃんのヒミツ～驚くべき生命力～」 観賞とレポート提出	杉本
6	脳の発達、原始反射	杉本
7	バランス機能の発達、姿勢反射	杉本
8	試験	杉本
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	リハビリテーション概論		
担当教員	富永 恵理 石井 綾子		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援等を含む）、地域包括ケアシステム、チーム医療、多職種連携を歴史的背景も含め学ぶ。ICIDHからICFへの変換を踏まえリハビリテーションの基本的視点と考え方について学ぶ。			
到達目標			
リハビリテーションの理念の理解とリハビリテーションの基本的視点と考え方について思慮を深める			
授業の形式・方法			
講義とビデオ学習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験と出席状況による増減			
学生へのメッセージ			
セラピストの土台となるリハビリテーションの理念とその背景をしっかりと理解しましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
リハビリテーション総論	椿原彰夫	診断と治療社	3,600
リハビリテーション概論―改訂第3版―	上好昭孝 田島文博	永井書店	3,000

コマ	履修内容	教員
1	リハビリテーションの歴史と日本の医療情勢について	石井
2	リハビリテーションの理念 医学モデルから社会モデル、 ICIDHからICFへ変換	石井
3	急性期・亜急性期リハ、回復期リハ、維持期・地域リハ	富永
4	多職種の役割・連携	富永
5	リハビリテーションの流れ カルテ記述の方法（SOAP）や地域連携バスやクリニカルパス	石井
6	自立支援、就労支援について	石井
7	チーム医療・チームアプローチ	富永
8	地域リハビリテーション	富永
9	地域包括ケアシステム	富永
10	地域リハビリテーション活動支援事業・災害支援事業について	富永
11	介護予防支援の実際	富永
12	ビデオ視聴にてリハビリテーションについて学ぶ	石井
13	ビデオ視聴にてリハビリテーションについて学ぶ	石井
14	ビデオ視聴にてリハビリテーションについて学ぶ	石井
15	筆記試験	石井 富永

科目名	リハビリテーション概論実習		
担当教員	吉田 幸史 北村 勝 富永 恵理 小橋 泰文		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	23
履修目的・授業概要			
リハビリテーション概論の内容をふまえ、理学療法士が働く現場を臨床見学することで、より具体的にその役割や意義を学ぶ。授業後半で実際に病院・施設を少人数グループに分けて実習に入り、医療施設とリハビリテーション部門、理学療法士、患者さんの現場を体験し、今後の学習へのモチベーションの向上につなげる。			
到達目標			
リハビリテーションの概念を理解し、臨床現場でどのような実践が行われているかを説明できる。			
授業の形式・方法			
講義、実習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験、見学実習後レポートにて判定			
学生へのメッセージ			
施設見学は、臨床の現場での学習であり施設より受けている注意事項を守ることはもちろん、医療者としての行動に務めること。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格

コマ	履修内容	教員
1	理学療法とリハビリテーション	北村
2	理学療法士の役割	北村
3	理学療法士の役割	北村
4	理学療法士の職場	北村
5	理学療法の流れ	北村
6	リスク管理について	北村
7	疾患の理解	北村
8	疾患の理解	北村
9	疾患の理解	北村
10	疾患の理解	北村
11	実際の見学実習で必要なこと	北村
12	ケーススタディ グループワーク	北村
13	ケーススタディ グループワーク	北村
14	授業の総括、見学実習についてオリエンテーション	北村
15	見学実習	担当

コマ	履修内容	教員
16	見学実習	担当
17	見学実習	担当
18	見学実習	担当
19	見学実習	担当
20	見学実習	担当
21	見学実習まとめ	北村
22	全体の総括	北村
23	試験	北村
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

コマ	履修内容	教員
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		

科目名	理学療法概論		
担当教員	手代木 みなみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要			
理学療法士を目指す学生として、これから4年間で学んでいく理学療法の大枠を知る。			
到達目標			
1. 理学療法の位置づけがわかる 2. 臨床理学療法の流れを知る 3. 障害についての理解を深める			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
理学療法の位置づけや制度、理学療法の大枠を理解することにより、今後4年間で学ばなければならない内容の概略を把握してもらいたい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
基礎理学療法学	大橋ゆかり	医歯薬出版株式会社	2800

コマ	履修内容	教員
1	理学療法士の職域,これからの時代に求められるPT	手代木
2	理学療法士が働く現場	手代木
3	理学療法士の職能	手代木
4	理学療法士と多職種連携	手代木
5	理学療法士と法制度	手代木
6	理学療法的手段①	手代木
7	理学療法的手段②	手代木
8	理学療法と福祉用具	手代木
9	福祉用具体験	手代木
10	障害を知る①	手代木
11	障害を知る②	手代木
12	理学療法プロセスを考える①	手代木
13	理学療法プロセスを考える②	手代木
14	医療事故と感染予防	手代木
15	1～14コマの範囲について筆記試験を実施	手代木

科目名	理学療法基礎技術論		
担当教員	富永 恵理		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要			
臨床現場では、患者－医療者の信頼関係を築き、バイタルサインを確認しながら理学療法を安全に効果的に行うことが大切であるため、基本的技術を習得する			
到達目標			
臨床実習等で患者様に必要な手技を安全かつ効率よく計測することができる。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験(100%)			
学生へのメッセージ			
理学療法士としての基礎内容を学ぶ授業です。問診・バイタルサイン、異常動作介助など理論と実技を学んでいきましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
バイタルサイン	聖マリアンナ医科大学病院看護部	照林社	2000

コマ	履修内容	教員
1	医療者としての心構え、態度、バイタルサインの定義	富永
2	観察法～患者を意図、目的をもって客観的に評価する	富永
3	体温測定の目的、方法。体温の変動要因	富永
4	脈拍とは、測定の目的、性質等	富永
5	脈拍測定・血管触診（学生同士触診）	富永
6	血圧とは、測定の目的	富永
7	血圧測定（学生同士）	富永
8	血圧測定（学生同士）	富永
9	呼吸器に関する解剖学、呼吸数、呼吸型の種類等について	富永
10	呼吸評価（学生間で呼吸測定）	富永
11	意識障害について	富永
12	意識障害の評価	富永
13	上記以外のバイタルサイン 全身性・局所性の確認・注意事項	富永
14	トランスファー、各種の姿勢、移動・移乗、介助の注意点	富永
15	1～14コマの範囲について筆記試験を実施	富永

科目名	理学療法演習Ⅰ		
担当教員	吉田 幸史 北村 勝 富永 恵理 小橋 泰文 手代木みなみ		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後期	1	8
履修目的・授業概要			
理学療法教育を理解するためには解剖学・生理学等の基礎医学の履修は重要である。その知識を強固なものとするために復習を行う。			
到達目標			
理学療法の専門知識に必要な基礎医学を理解する。			
授業の形式・方法			
必要な知識の整理に役立つ講義を行う			
成績評価の方法・基準			
講義後の小テストと出席率			
学生へのメッセージ			
担当教員はただ“教える”存在ではないことを認識すること。学生自らが学ぶことを手伝い、導く存在であることを忘れず、積極的に学ぶ行動を見せてほしい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	担当
2	解剖学①	担当
3	解剖学②	担当
4	解剖学③	担当
5	生理学①	担当
6	生理学②	担当
7	生理学③	担当
8	正常発達	担当
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	基礎評価法実習		
担当教員	小橋 泰文		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	後	1	15
履修目的・授業概要			
解剖学の知識を人体に応用し、全身の骨、筋、神経の触察技術の向上、獲得を目指す。			
到達目標			
身体各部の骨、筋、神経、血管を皮膚を通して視察・触察し、体表上に投影できる。			
授業の形式・方法			
学生が二人一組になり、パートナーの体表面上に指定項目を描くことを中心とした実習を行う。			
成績評価の方法・基準			
実技試験（100％）			
学生へのメッセージ			
理学療法にとって正確な触察技術は必須です。難しく感じるかもしれませんが、質問は随時受け付けています。復習をしっかり行い習得してください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
骨格筋の形と触察法 改訂第2版	河上敬介 他	大峰閣	13200

コマ	履修内容	教員
1	足関節周囲の触察（1）	小橋
2	足関節周囲の触察（2）	小橋
3	膝関節周囲の触察（1）	小橋
4	膝関節周囲の触察（2）	小橋
5	股関節周囲の触察（1）	小橋
6	股関節周囲の触察（2）	小橋
7	肩関節・肘関節周囲の触察（1）	小橋
8	肩関節・肘関節周囲の触察（2）	小橋
9	手関節周囲の触察（1）	小橋
10	手関節周囲の触察（2）	小橋
11	頸部・体幹前面の触察（1）	小橋
12	頸部・体幹前面の触察（2）	小橋
13	頸部・体幹後面の触察（1）	小橋
14	頸部・体幹後面の触察（2）	小橋
15	実技試験	小橋

科目名	地域理学療法学Ⅰ		
担当教員	富永 恵理		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
1	前	1	15
履修目的・授業概要			
地域リハビリテーションの概念をふまえ、予防、急性期、回復期、生活期のリハビリテーションにおける理学療法士の役割・専門性を考える。			
到達目標			
理学療法士として、医療的視点と生活の場での視点を持つよう、講義を通して学ぶ。			
授業の形式・方法			
講義 14 コマ + 1 試験			
成績評価の方法・基準			
筆記試験 (100%)			
学生へのメッセージ			
これまで 医療施設内が主であった理学療法士の活動が、在宅や地域に移行、拡大してきたことの意義やその目的、役割を整理し、そのための基本的知識や技術について学びます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	価格
講師資料			

コマ	履修内容	教員
1	リハビリテーションの広がりと社会的背景	富永
2	地域理学療法とは①	富永
3	地域理学療法とは②	富永
4	地域リハビリテーションシステム①	富永
5	地域リハビリテーションシステム②	富永
6	地域との連携①	富永
7	地域との連携②	富永
8	地域との連携③	富永
9	地域との連携④	富永
10	地域理学療法と関連機関	富永
11	障害者福祉	富永
12	障害者・高齢者の生活環境	富永
13	地域理学療法の展開 - 1	富永
14	地域理学療法の展開 - 2	富永
15	試験	富永